

第16回教育課程編成委員会 議事録

日時 2021年3月25日 14:00～15:00

場所 下関福祉専門学校 図書室

出席者

河本 由美 (一般社団法人 山口県介護福祉士会 会長)
河田 洋治 (社会福祉法人 菊水会 参事)
関谷 豊 (下関福祉専門学校 校長)
田中 満由美 (下関福祉専門学校 教務部長)
藤岡 恵子 (下関福祉専門学校 教務主任)
盛重 美恵子 (下関福祉専門学校 専任教員)
長本 幸子 (下関福祉専門学校 専任教員)
関谷 紗也佳 (下関福祉専門学校 専任教員)

欠席者

山本 美佐枝 (社会福祉法人 下関社会福祉協議会在宅福祉課長)

(敬称略)

課題

- ・今年度の教育目標評価及び課題
 - ・今年度の「福祉と文化」
 - ・各委員会からの意見要望
 - ・その他
-
- ・今年度の教育目標評価及び課題
各学年担任より評価及び課題を発表する。
 - 1. 介護福祉士として誠意をもって尊厳を守る介護を行うことができる
〈1 学年〉
例年であれば、学校での授業で基礎的な知識を得、実習Ⅱ（施設実習）の第1段階実習を体験することで再認識を行うのであるが、コロナ禍による利用者との関りが制限された施設もあり、尊厳をまもる介護の実践を体験することが困難であった。よって理解するまでに至らなかったと思われる。
〈2 学年〉
従来であれば、2段階実習と3段階実習の2回の実習を経て尊厳を守る介護の実践を行う予定であったが、コロナ禍により2段階実習は校内演習となり、3段階実習のみの実施となった。そのために利用者個々の尊厳を守る介護及び自立支援を意識的に行えなかった学生が多くいた。しかし、介護過程の展開において尊厳の保持、自立支援の外殻は理解できたと思われる。
 - 2. 介護を必要とする人のニーズをくみ取り、自立支援の介護過程の展開ができる。
〈1 学年〉
利用者の生活のしづらさは、実習での体験をもとに理解できたと思われる。しかし、コロナ禍により利用者との接触が制限されていたためその方の潜在能力を発見するまでには至らなかった。2年次に実施される2段階実習に期待をしたい。

〈2 学年〉

3 段階実習での介護過程の展開を行うことができたが、本人の望む生活を支えることができたかという観点でみると介護者視線での望む生活の介護過程の展開であった。これは、実習先での利用者の接触制限も影響していると思われる。

3. 利用者、家族だけではなく多職種協働に欠かせない記録を、的確に記述することができる。

〈1 学年〉

授業でのノート作成や実習での記録シート等が、人に見せることを意識せず自分のメモで終わっている学生が多い。留学生については、日本語コースの授業で日本語習得を行っているがまだ不十分である。

〈2 学年〉

2 段階実習を校内演習に代替し記録を重視して行った結果、個人の能力の差はあるが、的確でわかりやすい記録を記述しようとする努力は見られた。3 段階実習での介護過程の展開に必要な記録の記述を行ったことで、さらに記録の重要性を体験できたと思われる。留学生も 1 年次に比べ記録ができた。

委員からの評価、課題

- ・コロナ禍により、会議、研修をオンラインでしており、実習もオンラインでできるのではないか。
 - ・留学生は、方言や通常の日常介護の日本語を習得したいと思っているので、専門用語だけではなくそちらも併せて行ってはどうだろうか。
 - ・介護報酬の改定でもエビデンスが重要であるので、エビデンスを理解するようにして欲しい。
- ・今年度の「福祉と文化」
- ・「口腔ケア」は、コロナ禍により、静岡の歯科医師会のオンデマンド配信を視聴した。学生には好評であった。
 - ・下関小月消防署による救急救命講習は、コロナ禍により、中止となった。

次回開催の日時 2021 年 8 月開催予定